



GUEST



ミルクホールも本当に古くなりました。どのくらい古くなったかと言いますと、マスターがしょっちゅう店を修理して歩いているのですが、直しても直してもきりがいい程で、床の抜けそうな所はないとか、雨漏りする箇所はないとか、点検しながら時々ためいきまじりにあと何年もつのかなんて指折り数えている事があります。古くなるのは建物ばかりでは有りません。かつて“ガラスの少年”と言われたマスターも今年で37才、御客様も始めて来店された時は、少女だったような方が今では幼女子の手を引いていらっしゃるような姿も見かけます。そんなミルクホールの今までの色々なお客様の事をお話してみようと思います。

ミルクホールのお客様 その1
詩人の田村隆一氏がもう永年のミルクホールのお客様である事を聞いたのは、数年前の事です。高校時代より田村氏のファンだった私は胸をときめかせたのですが先生がお酒を控える様になってからは、もう殆どいらっしやる事が無いと知ってがっかりしました。ところが私が丁度出掛けていた時に、久しぶりに立ち寄られたそうで先生はマスターをつかまえてお酒を召し上がり、「君と飲んでいると、熊のプーさんと飲んでいる様だよ。」と喋っていたそう御機嫌で帰られたそうです。

昔、ミルクホールでよく飲んでいらっしやっていた頃は、お酒で体を壊して入院されていたそうで、病院を抜け出しては飲みをいらしたそうです。その後、かなりの決心でぶっつき深酒をしなくなったそうです。お店にあまりいらっしやなくなったのは残念ですが、健康になられて本当に良かったとファンの人として喜んで居ります。そして今回は私の大好きな先生の詩の一部を紹介させて頂きます。

鳥は飛ぶ
鳥は鳥のなかで飛ぶ

鳥の目は邪悪そのもの
鳥の舌は邪悪そのもの
彼は破壊するが建設しない
彼は再創造するが創造しない
彼は断片 断片のなかの断片
彼には気のないはあるが空虚な心はない
彼の目と舌は邪悪そのものだが彼は邪悪ではない
燃えろ 鳥

燃えろ 鳥 あらゆる鳥
燃えろ 鳥 小動物 あらゆる小動物
燃えろ 死と生殖
燃えろ 死と生殖の道
燃えろ

田村隆一詩集『言葉のない世界』より



AUTUMN BAZAR

— ミルクホール 秋の市 —

ミルクホールの入口の脇に、ひっそりと控えている小さなドアのあるお店を皆様御存じだと思います。もともとミルクホールの母体であり、昔前は若い女性達で賑ったものですが、今ではこの鎌倉の裏道を通りかかると人達の目を窓越しに楽しんで頂く為に、時々思いだしたように模様替えをしたり配置替えをしたりしています。

ミルクホールでは、この秋風の吹く季節に、この場所で、秋の市を開催する事に致しました。

商品は、主に明治、大正、昭和の日本の骨董品、古道具類、又同年代のアメリカ製の小物や額絵、ミルクホールで修理リメイクした家具などです。

商品の御案内

陶器・・・古伊万里など
ガラス・・・金魚鉢、電気シェード、水皿、グラスなど
浮世絵・・・数点
古時計・・・柱時計、置時計など
家具・・・玄關用家具、スチール製ツールなど
アクセサリ・・・USAポスター・花瓶・その他ガラタ類

期間は10月末より12月中旬まで、詳しくは店内INFORMATIONにて掲載致します。又、電話でのお問い合わせもお受け致します。

LA MARMITE



COLUMN

どこの家にも、少し古くなった家には、そこの主のような動物が居るものです。昔は、家には必ず守り神の大蛇が居るとか、ねずみがいなくなると火事になるとか言われて殺生をしないように戒められたものですが、ミルクホールにも代々自分こそがこの主であるといった様な顔をした動物達が居ります。

時々、ミルクホールの落書き帳にも登場している猫はもう何年も前に、獣医さんちからもらわれてきたのですが、ちょっと目を離すとお店に入り込んでお客さんの膝の上に入りこんだりして驚かせています。この猫は一時見知らぬ人に餌付けされて2年程行方不明になっていたのですが、又最近になってのこのことまい戻って来たのです。勝手というか気楽というか今でも暇さえあれば店の前のベンチの下や、塀の上なんかから愛敬を振りまいて、色々な人から餌を頂いているようです。

実は、本来の主と言わなければならない名前の愛犬が居たのですが、彼はとてもお人好しな性格で皆に愛されましたが、住み慣れた我が家から今年の2月頃いなくなり、今だ行方知れずなのです。彼は何処かで優しい主人に飼われているのかもしれない。犬や猫ばかりではなくこのミルクホールの敷地内には無数の小動物がいます。

ちょっと前の話になりますが、或る雨の夜、マスターがどこかから帰ってきて店に入りますと、一人コーヒーを飲んでいた男の人が驚いた表情で床のほうを指差すのを見ると、なんと、でっかいがまがえるが店の真ん中に座り込んで居たそうです。びっくりして、マスターはお鍋にがまがえるを捕えて離してやっただけですが、パーテンの老松君は、そのかえるを何度か見かけた事があるという事で、この前も店を閉めようとしていたら、入口に座ってこっちを見てたんだそうです。もしかするとミルクホールの本当の主は、あのがまがえるなのかもしれません。



★先月は、編集者が風邪で寝込んでしまい、ついに発行する事ができませんでした。皆様に御迷惑をお掛けした事を、深くお詫び致します。